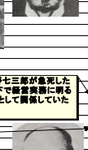
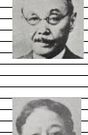
日本車輌の首脳陣が愛した迎賓館・賀城園

名古屋で指折りの素封家　深田仙太郎が丹精を込めて創った日本庭園

歴史	好不況	天災	日経平均	円ドル為替	米価（円）	西暦	元号	日本車輌社歴	日本車輌の歴史
愛知時計が設立。名古屋倉庫（東陽倉庫の前身）が設立。					2.2	1892	明治２５年		
岡田正香が名古屋商業会議所の会頭に就任し長期政権へ。	日清戦争不況				2.6	1893	明治２６年		
日清戦争賠償金。豊田佐吉が創業。豊田喜一郎が誕生。					2.6	1894	明治２７年		
下関条約調印。三国干渉。日本政府、遼東半島返付に同意。	日清戦争好況				2.9	1895	明治２８年		
愛知銀行（東海銀行の前身）が設立された。開谷怒助が頭取に。		三陸地震			4.0	1896	明治２９年	1	明治29年　９月鉄道車両の製造販売を目的として名古屋市に設立
東本願寺開墾。陸軍用地買収。名古屋市の市勢人口「五万戸」を作る					5.7	1897	明治３０年	2	
大隈第一が大隈鐵道商会を設立（オークラ）。		余震			3.2	1898	明治３１年	3	設立当初は名古屋駅の笹島に仮工場を設けて鉄道車両を製造したが、明治３１年に熱田本工場が竣工したことをうけ、笹島仮工場を撤収した。熱田工場は当時希少であったボギー車の製造を行った。
清水港開港場。三井物産が非利商会を設立し、豊田佐吉が特許取に。	戦後不況				4.0	1899	明治３２年	4	
清朝北京において北清事変勃発。					3.7	1900	明治３３年	5	
日露間に緊張高まる。正岡子規死去。					3.8	1901	明治３４年	6	
第一回日英同盟成立。					4.9	1902	明治３５年	7	明治35年　わが国初のバス製作。
対伊東京都知事と協定でロシア皇太子の歓迎式典が行われる交渉。	日露戦争深刻				4.3	1903	明治３６年	8	
国利決裂。対露宣戦布告（日露戦争）。日本陶器が設立。		台風			4.3	1904	明治３７年	9	
日本海海戦。日露戦争に勝利。	日露戦争好況				5.2	1905	明治３８年	10	
熊谷材木商這設立。東海倉庫（東陽倉庫の前身）が設立。					5.2	1906	明治３９年	11	明治39年　東京電車鉄道ボギー式電車
名古屋港の開港。（豊田式織機）が設立され、佐吉が実務に。	日露戦争後遺				5.7	1907	明治４０年	12	
安井ミシン商会（ブラザー）が設立。					4.9	1908	明治４１年	13	
経済統合が名古屋電燈の株を買いあげて名古屋に乗り込む。					4.0	1909	明治４２年	14	
鉄路公園で博覧会。豊田佐吉が防水綿糸、いろう鉄器が賞受ける。					5.3	1910	明治４３年	15	
日米通商航海条約改正（関税自主権の回復）。工場法施行。					6.1	1911	明治４４年	16	
名古屋商業会議所で鉄道高架が金沢開設され、佐吉、常生せエ場完成。					8.3	1912	大正元年	17	
東北で大凶作。納屋橋の該工渡橋式					7.2	1913	大正２年	18	
第一次世界大戦勃発。海軍大臣辞任。帝国海軍の伝統国で取り引り様ず。	第一次世界大戦				4.3	1914	大正３年	19	
加藤高明外相。日露協定を通じて中国に対して一十一箇条の要求。					5.1	1915	大正４年	20	
第二次大隈内閣総辞職。大命は寺内正毅に降下。	戦争特需景気				6.0	1916	大正５年	21	
ボルシェビキによるロシア十月革命。		ベスト流行			8.4	1917	大正６年	22	
名古屋で米騒動勃発。佐吉が豊田紡織（株）設立。					14.6	1918	大正７年	23	大正7年　当社初の蒸気機関車８ｔＢ形
第一次大戦に関するパリ講和会議。敗為製パン設立。	戦後恐慌				20.0	1919	大正８年	24	
国際連盟発足。日本、常任理事国として加盟。					10.0	1920	大正９年	25	
原敬首相、東京駅頭で暗殺される。					14.0	1921	大正１０年	26	
モスクワにて第一回ソビエト大会。ソビエト連邦成立。					10.0	1922	大正１１年	27	大正11年　当社最初の鉄道省向け大型蒸気機関車
関東大震災突発。					12.4	1923	大正１２年	28	
豊田佐吉が「自動織機と紡績式豊田自動織機」完成					15.2	1924	大正１３年	29	大正13年　本店工場に機関車工場を併設
治安維持法公布。松坂屋、南大津町に移転		台風			15.9	1925	大正１４年	30	
大正天皇崩御。豊田佐吉が豊田自動織機製作所を設立。					13.0	1926	昭和元年	31	
渡辺銀行などで取り付け騒ぎ。昭和金融恐慌始まる。	世界恐慌				13.0	1927	昭和２年	32	昭和2年　わが国初の地下鉄電車
治安維持法改正。全国に特別高等警察（いわゆる「特高」）設置。					10.0	1928	昭和３年	33	
ニューヨークで株暴大暴落。「世界恐慌」の発端となる。					10.0	1929	昭和４年	34	
ロンドン海軍軍縮会議開催。					8.0	1930	昭和５年	35	
具体事業実施。都長崎の高級料理屋前に指名等し、青酸酒類の全容開。					6.0	1931	昭和６年	36	後藤幸三は昭和2年に社長に就任。技術者出身の第5代社長天野七三郎が急死した後、同社社長は人選の難航でしばらく空席となっていたが、不況下で経営実務に明るい人物を探えたいという元社長鹿定助の意向により、資本家重役として開係していた後藤が第6代社長に選ばれた。
上海事変。五・一五事件。大阪首相を射殺。					10.0	1932	昭和７年	37	
国際連盟脱退。		三陸地震			8.0	1933	昭和８年	38	
渦州国、溥儀を皇帝として推戴。		室戸台風			11.0	1934	昭和９年	39	
美濃部達吉貴族院議員の「天皇機関説」が問題化する。					12.0	1935	昭和１０年	40	
二・二六事件勃発。					11.0	1936	昭和１１年	41	
北京郊外盧溝橋で日中国軍が衝突（北支事変勃発）。					12.0	1937	昭和１２年	42	昭和6年、日本車輌、大隈鐵工所、岡本自転車自動車工業、愛知時計機械の四社による高級乗用車生産計画を立てるに至り、四社合同で400万円を出資し、各社でパーツを分担して生産し、最後組立て は日本車輌で行うこととなった。そうして生み出されたのが大型高級車の「アツタ号」である。 昭和７年８月、アツタ号は完成披露された。
国家総動員法公布。					13.0	1938	昭和１３年	43	
ドイツ軍、ポーランドに侵攻。英仏、ドイツに宣戦。第二次世界大戦勃発。					15.0	1939	昭和１４年	44	
日独伊三国同盟締結。					16.0	1940	昭和１５年	45	
日本軍、ハワイ真珠湾を奇襲攻撃。	太平洋戦争				17.0	1941	昭和１６年	46	
ミッドウェー海戦。		東南海地震			17.0	1942	昭和１７年	47	
第一回学徒出陣。					18.0	1943	昭和１８年	48	
米軍、サイパン島上陸。					18.0	1944	昭和１９年	49	
敗戦の年		三河地震			1,204.0	1945	昭和２０年	50	
日本国憲法公布。					1,384.0	1946	昭和２１年	51	
公職追放令、その適用範囲が財界、言論界にも及ぶ。					1,643.0	1947	昭和２２年	52	
公務員の団体交渉権、争議権を禁止。					2,080.0	1948	昭和２３年	53	
トヨタが深刻な経営危機	インフレ不況			350	2,048.0	1949	昭和２４年	54	
朝鮮戦争特需始まる。全国タ電力会社制にする。	朝鮮動乱特需		102	350	2,504.0	1950	昭和２５年	55	
サンフランシスコ講和条約、日米安保条約調印。			166	350	3,040.0	1951	昭和２６年	56	
皇居で血のメーデー			363	350	3,454.0	1952	昭和２７年	57	
朝鮮戦争終結。ＮＨＫテレビ放送開始。台風13号		台風13号	378	350	4,273.0	1953	昭和２８年	58	
神武景気へ向け景気拡大へ。	神武景気		356	350	4,003.0	1954	昭和２９年	59	
春闘方式の開始。自由民主党結成			426	350	4,064.0	1955	昭和３０年	60	
経済白書で「もはや戦後ではない」とうたわれる。関税加盟。			549	350	4,028.0	1956	昭和３１年	61	
なべ底不況へ向け景気後退始まる。	なべ底不況		475	350	4,129.0	1957	昭和３２年	62	
岩戸景気へ向け景気拡大へ。	岩戸景気		667	350	4,129.0	1958	昭和３３年	63	
栄母市が豊田市に改名。		伊勢湾台風	875	350	4,133.0	1959	昭和３４年	64	
池田内閣、所得倍増計画発表。			1,357	350	4,162.0	1960	昭和３５年	65	
大阪が横綱に。			1,433	350	4,421.0	1961	昭和３６年	66	
オリンピック景気始まる。ＬＴ貿易（日中貿易）開始。	転換型不況		1,420	350	4,866.0	1962	昭和３７年	67	
ガット11条国へ移行（貿易・為替の自由化）。	オリンピック景気		1,225	350	5,268.0	1963	昭和３８年	68	
既存に正式加盟。東京オリンピック。佐藤栄作首相。			1,217	350	5,985.0	1964	昭和３９年	69	
山陽特殊鋼倒産。名神高速開通。	証券不況		1,418	350	6,538.0	1965	昭和４０年	70	
アジア開発銀行設立。			1,452	350	7,140.0	1966	昭和４１年	71	
資本の自由化（外資の参入を認める）。公害対策基本法成立。	いざなぎ景気		1,283	350	7,797.0	1967	昭和４２年	72	
いざなぎ景気。ＧＮＰが世界第2位となる。			1,715	350	8,256.0	1968	昭和４３年	73	
東名高速道路が開通。			2,359	350	8,256.0	1969	昭和４４年	74	
大阪万博。円不況へ向け、景気後退へ。	ニクソンショック		1,919	350	8,272.0	1970	昭和４５年	75	
ニクソン・ショック（金・ドル交換停止等のドル防衛策発表）。			2,714	350	8,522.0	1971	昭和４６年	76	
沖縄返還。田中角栄首相に。日中国交回復。	列島改造景気	台風6号	5,208	308	8,954.0	1972	昭和４７年	77	
第1次オイルショック。石油不足へ向け貿易後退へ。			4,307	301	10,301.0	1973	昭和４８年	78	
狂乱物価。戦後初のマイナス成長。	第1次(9)ショック		3,817	299	13,615.0	1974	昭和４９年	79	
マイナス成長続く。景気拡大へ。赤字国債、本格化。			4,359	298	15,570.0	1975	昭和５０年	80	
ロッキード事件。		台風17号	4,991	304	16,572.0	1976	昭和５１年	81	
200カイリ漁業水域法施行。日航機ハイジャック。	円高不況		4,866	288	17,232.0	1977	昭和５２年	82	
日米半導体摩擦で日米協議。			6,002	242	17,251.0	1978	昭和５３年	83	
第2次オイルショック。「ジャパン・アズ・ナンバーワン」出版			6,569	201	17,279.0	1979	昭和５４年	84	
日本の自動車生産1千万台突破し、世界一に。	第2次(9)ショック		7,116	239	17,674.0	1980	昭和５５年	85	
日米自動車協議、対米輸出自主規制へ。			7,682	205	17,755.0	1981	昭和５６年	86	
中曽根康弘首相に。ＩＢＭ産業スパイ事件。			8,017	228	17,951.0	1982	昭和５７年	87	
ハイテク景気に向け景気拡大へ。住天望ファミコン発売。			9,894	238	18,266.0	1983	昭和５８年	88	
グリコ森永事件。	ハイテク景気		11,543	235	18,668.0	1984	昭和５９年	89	
電電公社が民営化。円高不況に向け景気後退へ。日航機墜落。			13,113	255	18,668.0	1985	昭和６０年	90	
東京サミット。バブル景気に向け景気拡大へ。	円高不況		18,701	193	18,668.0	1986	昭和６１年	91	
ＮＹ株式市場大暴落。国鉄分割・民営化。			21,564	152	17,557.0	1987	昭和６２年	92	
半導体の売上シェア、世界の50%以上に。	バブル景気		30,159	127	16,743.0	1988	昭和６３年	93	
東証株価最高値（38,915円）。消費税（3%）導入開始。			38,916	129	16,743.0	1989	平成元年	94	
湾岸戦争。不動産向け融資の総量規制実施→バブル崩壊へ。			23,849	144	16,500.0	1990	平成２年	95	
平成不況へ向け景気後退へ。消費税5%に。ソ連消滅。	バブル崩壊	台風18号	22,984	131	16,392.0	1991	平成３年	96	
東証株価5年ぶりに2万円を割る→バブル経済の完全崩壊。			16,925	126	16,392.0	1992	平成４年	97	
一人当たりの名目ＧＤＰ、日本が初の世界一（33,764ドル）。			17,417	124	16,392.0	1993	平成５年	98	
関西国際空港開港。	カンフル景気		19,723	110	16,392.0	1994	平成６年	99	
阪神大震災。ＷＴＯ発足。円、史上最高値（1ドル=79円）			19,868	99	16,392.0	1995	平成７年	100	
持ち株会社解禁。金融ビッグバン構想。			19,361	107	16,392.0	1996	平成８年	101	
消費税5%に。拓銀破綻。山一証券自主廃業。	倒産続不況		15,259	122	16,217.0	1997	平成９年	102	
金融再生委員会発足。名目ＧＤＰ、初のマイナス成長。		台風7・8号	13,842	127	15,805.0	1998	平成１０年	103	
日産、ルノーの傘下へ。ＮＴＴ、持ち株会社の下で分割。	IT景気		18,934	116	15,528.0	1999	平成１１年	104	
介護保険制度スタート。そごう倒産。		東海豪雨	18,260	107	15,104.0	2000	平成１２年	105	

代表取締役	首脳陣の動き
奥田正香	初代社長　奥田正香
上遠野富之助	
森本善七	
湯定助	
天野七三郎	6代目社長　後藤幸三
後藤幸三	
三瓶勇佐	
岩垂捨三	

後藤幸三は、父の安太郎ともども興信録収載に臨む。父とともに貰い入れた興信録の一つに古家芦良蔵（しりぶくら）家入「参予録（いとすだれ）」がある。また「万葉集」の花押未（花押帽川家に保存）を家本）を入手してその筆跡に取り組み、昭和16年に新釈本を刊行して大学や図書館などに寄贈した。さらに高橋信孝氏流宗鑑紙が造てた茶室「紙賓閣の座」（ねじかごのせき）を取得して昭和11年に自邸へと移築した。

晩年には収集した興信録・史料の保存・公開を図るべくこれらを財団法人後藤安樹基金（現・後藤樹基金）を昭和10年に設立した。さらに興信録を通じてみく鼓舞の土地・敷地も購入金へ寄付した。そして死去1年後の昭和53年、名古屋市昭和区夕見町に「昭和興信館」が開館した。

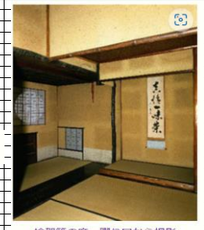
南山寿荘
馬場勝家老を務めた武家茶人の波逸頂嶺（わたなべのりつな）によって江戸時代末期・天保3（1832）年に造てられた建物を現在の場所へ移義した「南山寿荘」。波逸宏別邸の一部、間れ部分にあたり、茶室「紙賓閣の座」（ねじかごのせき）と2階書院を中心とした建物です。

もとは名古屋市熱田区の堀川沿いに建てられたもので、昭和10（1935）年に当館創設者の後藤幸三が前時の所有者の方より譲り受け、南山に現在に近い調在の場所へ移義しました。そして「南山寿荘」と名付けられました。

熱田神宮前のアツタ号フェートン型（出典：NISSHA MAGAZIN, No.4, 1965）

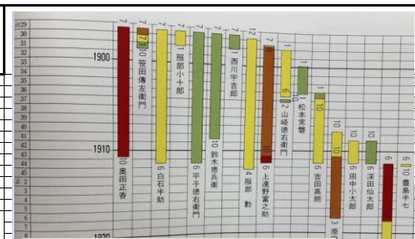
昭和笑崎館は、設立者である後藤幸三（ごとうこうぞう）が広年に目り収集した資・茶道具を保存・研究・公開に供する目的で、昭和53年5月に名古屋の南東、八事に ほど近い地に開館致しました。館蔵品は一重要文化財4点を含む約800点、うち80%が茶道に関するものとなっています。

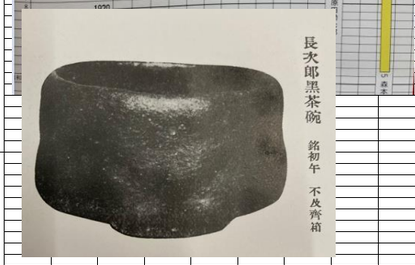
後藤幸三は、アツタ号の完成祝賀会を、この地で開いていたかもしれない。


捻駕籠の席　躙り口から撮影

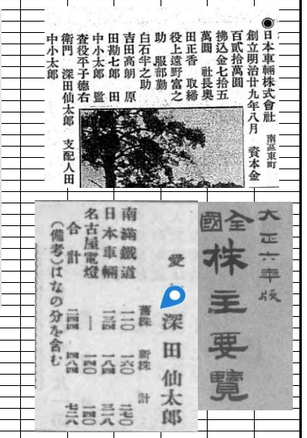
賀城園　平成5年1月5日

賀城園の土地建物の所有者	賀城園の歴史
奥田 正香（おくだ まさか）は、明治時代に貿易した日本の実業家。元は高張藩の藩士。神官・醤油醸造で財を成し、その後名古屋で多くの有力企業の設立に関与して「名古屋の炭沢栄一」と呼ばれた。名古屋商業会議所（後の名古屋商工会議所）の会頭を長く務め、愛知県会議員としての活動歴もある。	
山田愛作が競落により取得	
深田仙太郎が取得	深田仙太郎は、建物と庭を創った人物である。深田は資産家で、日本車輌などの大手株主であった。財界人との交友関係があって、明治時代の名古屋財界のドンでもあった奥田正香とも親しかった。日本車輌では明治４１年に監査役に就任して明治４４年まで務めた。自宅に日本車輌の首脳陣を招いてもてなしたと推察される。愛知電工銀行の常務を務めていたこともあった。昭和５年没。
深田はな家督相続により取得	
藤原英三が取得	熱田故深田仙太郎氏外某家所蔵品貴立目録　（昭和１１年）によると、深田のコレクションがいかに凄いかがわかる。そのうちの一つに「長次郎黒茶碗」がある。 長次郎は、千利休の好みを受けて「楽易形」といわれる茶碗を創出した楽焼きの創始者である。その初代の作品なので、まさに国宝級。
星野鉄二が取得	
平岡金兵衛が競落により取得	
百五銀行が取得	
内務省により保存登記	日本車輌は当時軍部との結びつきが深く、陸軍の管理下にあった。「内務省の所有」となっているが、実際には日本車輌の迎賓館であったと推察される。
木村吉助が取得	木村吉助は資産家である。この地の屋敷と庭を変して整備に励んだ。
賀城園創業者	調査の賀城園へは昭和35年頃移転しております。
加藤幸吉	現在の賀城園へは昭和35年頃移転しております。 建物は以下の３つである。 ①家屋番号　１６１１番１の１ ②家屋番号　１６１１番２の１ ③家屋番号　１６１１番２の２ ①の建物は未登記だった 昭和35年9月29日　大蔵省が差押えた建物を合資会社鳥幸　が　売買により取得した。 ①2の土地 昭和37年1月15日　合資会社鳥幸　が　売買により取得 土地を買う前に建物を買ったところから会社建物に執着があったと思われる。 この庭園と茶席はそれほど素晴らしかった。 「あの熱田の土地は、それはそれは素晴らしいものだ。情緒溢れる茶席に、土地の高低差を活かしたお庭。春になれば桜、秋になれば紅葉が楽しめる。元はといえば深田仙太郎という大旦那が持っていたもの。当時は凄い茶器がところ狭しに並んでいたそうだ。あそこで料亭をやれば、きっと大勢のお客様が来てくれるだろう。差押えになったという話を聞いたので、何とか手に入れたい」という強い願望を持っていたと想像される。
小栗栄太郎	賀城園のサイトにはこう記されている。 現在の賀城園へは昭和35年頃移転しております。木造平屋の大きな母屋と庭園を囲むように配置された、いくつかの建物、茶室のある邸宅でした。賀城園の営業開始にあたり、幸吉は全国の有名な料亭やお屋敷、旅館などを巡り店内や庭の意匠を学んでいったそうです。その中の一つ東京目黒の料亭に深く感銘を受け店名をその料亭の名をもじり賀城園としたとも聞いております。幸吉は庭の元の姿にこだわり、木が枯れた時は同じ木を同じ場所に植えることを徹底し、むやみに切ることをしませんでした。





深田が所蔵していた長次郎黒茶碗



初代の加藤幸吉

創業者加藤幸吉は大正九年岐阜県恵那郡市に産まれ、昭和二十年終戦後名古屋市熱田区玉の井町、伏見通沿いに鶏肉販売店を始めました。正直な商売を心掛け大変繁盛したと聞いております。昭和二十五年には鶏肉料理屋「鳥幸」を始めます。この鳥幸が賀城園の前身となるお店です。また同じ年鶏肉販売店は閉店し、跡地に洋画専門の青空映画館「旗風シネマ」も始めております。

料亭「賀城園」を守ることを祈念して作成し寄贈

令和7年4月　北見昌朗